

題名：	永	遠	の	大	空				
空	は	依然	青	く、	雄大	な	自然	も	変
ま	で	す。	し	か	し、	私	の	心	の
し	た。	私	は	1	年	前	に	母	の
な	光	を、	永久	に	失	っ	た	の	で
だ	っ	た	母、	そ	の	指	導	力	に
大	で	し	た。	母	は	娘	で	あ	る
て	く	れ	ま	し	た。	母	の	無	限
不	自	由	な	く	育	っ	た	私	に
あ	っ	て	当	た	り	前	で、	そ	の
気	づ	く	こ	と	が	あ	り	ま	せ
2008	年	8	月、	私	に	研	修	生	と
会	が	訪	れ	ま	し	た。	母	に	相
な	か	な	か	賛	成	し	て	く	れ
さ	ん、	私	日	本	へ	行	き	た	い
あ	る	の	！	」。	母	は	暫	く	考
か	の	よ	う	に	「	分	か	っ	た。
し	ゃ	い	！	」	と	答	え	ま	し
既	に	ガ	ン	に	侵	さ	れ、	深	刻
私	は	知	り	ま	せ	ん	で	し	た。

の永遠の別れを感じていたのです。
 来日して三ヶ月が過ぎ、中国の春節を迎え、
 母の声が聞きたくて何度も電話をかけました
 が、母は家にいませんでした。不安になり、
 Eメールを確認すると、中国にいる弟から20
 通を超えるメールが届いていました。
 「姉ちゃん、母さんが危篤で入院している
 よ！母さんは知らせるなと言っているけど、
 もう最後だから早く帰ってきて！」
 私は初めて母の病状を知って、悲しくて
 泣き崩れました。夜中に会社や組合に連絡し
 同意を得て、翌日組合の先生の見送りを受け、
 一番の飛行機で帰国しました。
 病室に駆けつけた私は、憔悴し切った母を
 見て涙がとまりませんでした。私の泣き声に
 目が覚めた母は、どこからそんな強い力が沸
 いてきたのか、いきなり点滴の針を抜き捨て
 て、「誰が帰って来いと言ったの！会社に
 迷惑掛けないで、早く日本に戻りなさい！」と
 私を怒鳴ったのです。「お母さん、怒らない

で！会社の許可きよかをもらって帰かえってきたから、
 そんなに怒おこらないで！」私の説明せつめいを聞いた母
 はやっとな得なつとくし、私を抱だきしめて、「日本行ゆ
 きは自分で選えらんだ道だから、必かならず最後さいごまで歩あゆ
 みなさい」と、力ちからを絞しぼって言ってくれたので
 す。それが母が私に託たくした最後の愛、「夢は
 諦あきらめないで！」との願いでもありました。
 翌日よくじつ母は私達わたしたちに看取みとられ、この世を去りまし
 た。母の愛と願いを胸に、葬式そうしきを終おえた私は
 涙を拭ふき取とり、また日本に戻もどってきました。
 実は私も一見いちげんの母であります。来日して2
 年間おきな幼い息子むすこへの切実せつじつな想おもいが途切とぎれること
 がありません。でも後1年間最後まで頑張がんっ
 て、息子に夢を諦あきらめない母親の後姿うしろすがたをしっか
 り見せてあげたいと思います。
 私達は皆みな、生まれた時から母親という大空
 の下もと、愛の光に包つつまれて育ちます。皆さんも
 母の愛の偉大さ感じてみてください。私の母
 は、もういませんが、心の空は私から子へ、
 孫へと永遠に受け継つがれていく事でしょう。